

# 平成 22 年の災害について

## 1. 気象状況

### ○ 梅 雨

- ▶ 平成 22 年の梅雨入りは全般に遅く、梅雨明けは全般に早かった。
- ▶ 梅雨時期の 6～7 月の降水量<sup>1)</sup> は全般的に多く、梅雨期の短期間に集中的に降雨があったことがわかる。

梅雨時期と降水量の平年比較

	5月	6月	7月
東北北部			降水量平年比 119%
東北南部			降水量平年比 115%
北 陸			降水量平年比 94%
関東甲信			降水量平年比 101%
東 海			降水量平年比 96%
近 畿			降水量平年比 135%
中 国			降水量平年比 103%
四 国			降水量平年比 121%
九州北部			降水量平年比 111%
九州南部			降水量平年比 167%
奄 美			降水量平年比 94%
沖 縄			降水量平年比 97%

梅雨期間:  今年  平年

### ○ 台 風

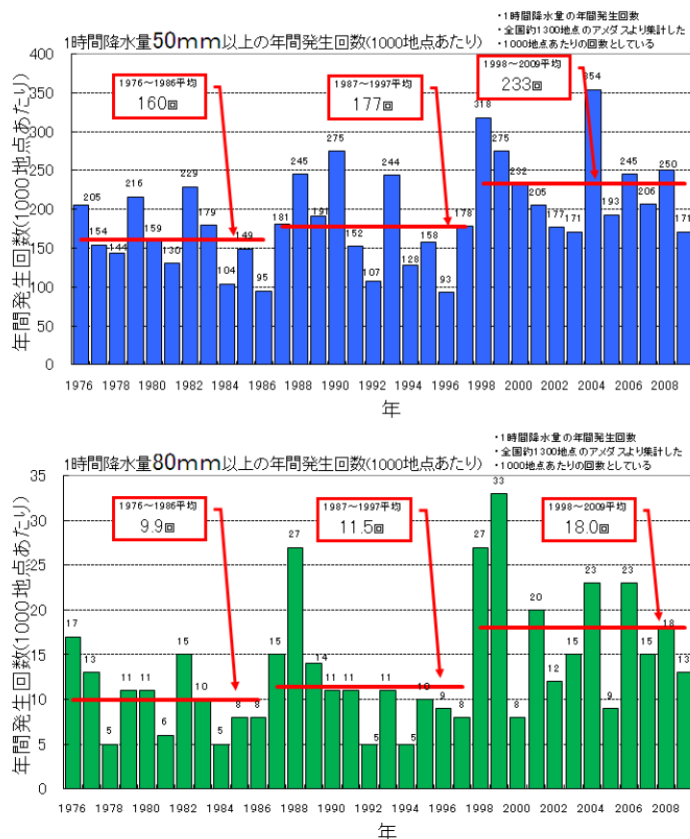
- ▶ 9 月末までの台風の発生は 12 個（平年 19.1 個）、日本に接近した台風は 6 個（平年 8.9 個）、本土に上陸した台風は 2 個（平年 2.5 個）と、それぞれ平年を下回った<sup>2)</sup>。
- ▶ 8 月の降水量は全般に少なく、四国・中国地方など平年の 40%を下回る場所もあり、茨城県館野、広島、福山、呉では、8 月の月降水量の最小値を更新した<sup>3)</sup>。

台風の発生・接近・上陸回数の平年比較

9月末現在	今年	平年	
発生数	12	19.1	
接近数	6	8.9	
	本土	2	4.5
	沖縄・奄美	5	6.1
上陸数	2	2.5	

## ○ 短時間降雨

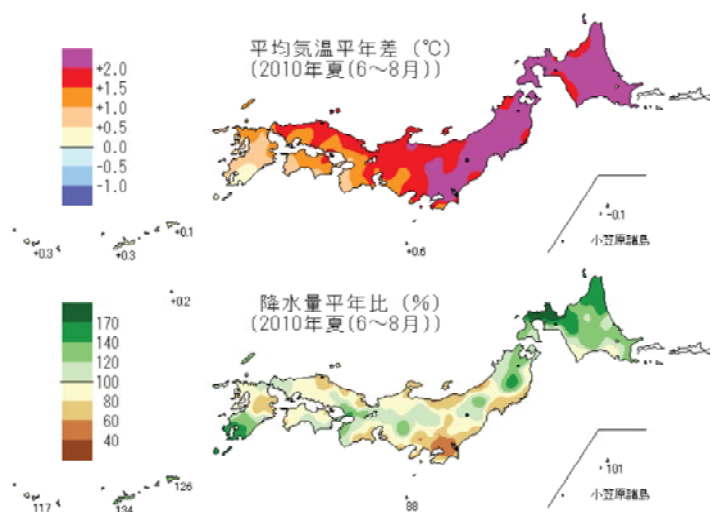
- ▶ アメダスが観測した1時間降水量50mm及び80mm以上の短時間強雨の発生回数は、9月30日までに1,000地点当たりそれぞれ166回、10回であり、昨年と同程度。



1時間降水量50mm及び80mm以上の短時間強雨の発生回数

## ○ その他

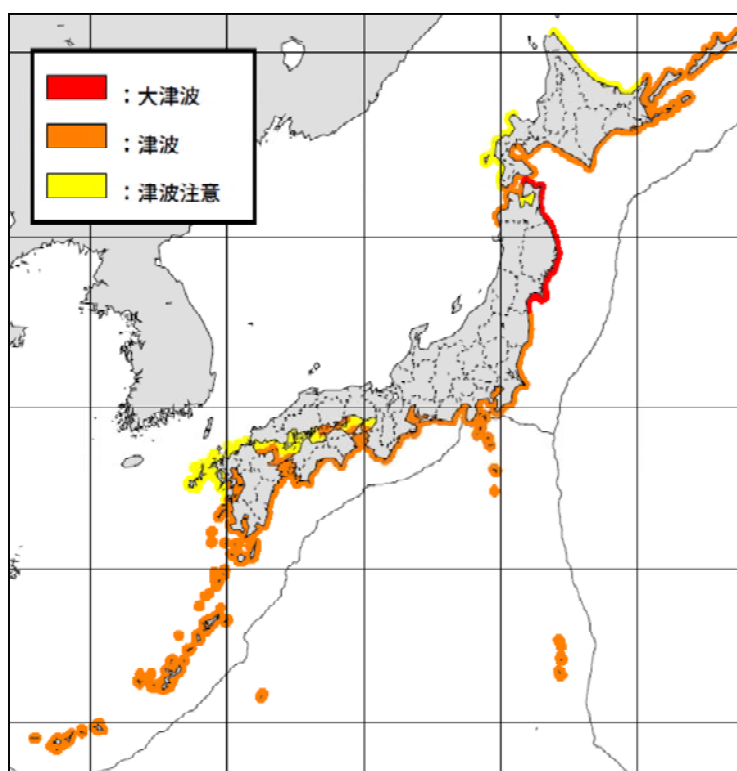
- ▶ 今夏(6~8月)の日本の平均気温は、1898年以降で最も高かった<sup>4)</sup>。
- ▶ 全国153の气象台・測候所等のうち、熊谷(埼玉県)、富山、大分など11地点で夏の猛暑日(日最高気温35℃以上)日数の最大値を更新した。また、11地点で夏の真夏日(日最高気温30℃以上)日数の最大値を更新した。  
さらに、48地点で夏の日最低気温25℃以上の日数の最大値を更新した<sup>5)</sup>。
- ▶ 5月31日以降、熱中症で救急搬送された人は、56,184人、うち172人が死亡。搬送者数は2008年以降で最多であり、7~9月の搬送者数は前年同期の約4倍、死者数は約10倍<sup>6)</sup>。



## 2. 災害の概要

### ○ 地震 —チリ地震による津波—

- ▶ 2月27日、チリ中部沿岸の深さ約20km地点でマグニチュード8.8の地震が発生。
- ▶ 翌28日9時33分、津波警報および注意報を発令。  
大津波警報が発令されたのは平成5年7月の北海道南西沖地震以来17年ぶり。
- ▶ 28日の午後から3月1日午前までの間に太平洋沿岸など各地に津波が到達。  
最大到達波高は、岩手県久慈港および高知県須崎港の1.2m。
- ▶ 浸水被害は、宮城県で床上浸水6棟、宮城県および静岡県で床下浸水51棟。
- ▶ 津波到達に備え水門の閉鎖や、津波の影響を受ける区間について一時通行止めを実施。

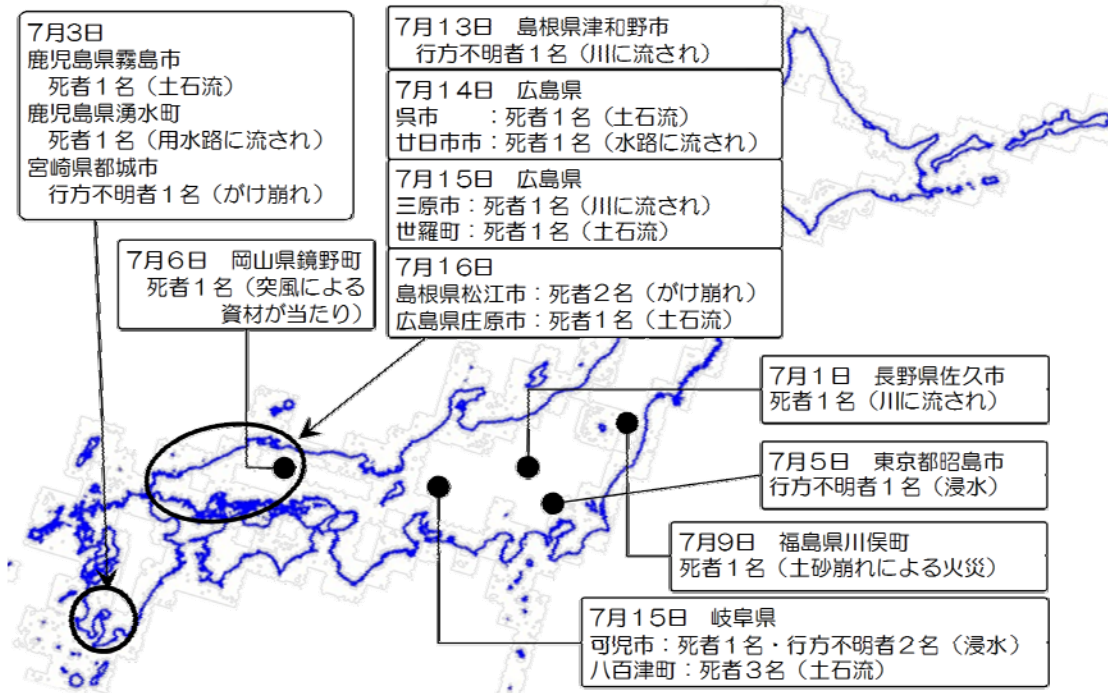


津波警報・注意報の発表状況（2月28日9:33発表）<sup>7)</sup>

項目	内容	備考
大津波警報	青森県太平洋沿岸、岩手県、宮城県	発表：28日9:33 津波警報切替：28日19:01
津波の状況	岩手県久慈港：1.2m（17:01）、高知県須崎港：1.2m（19:42） 鹿児島県志布志港：1.1m（19:56）、宮城県仙台港：1.1m（20:52）	
住家被害	床上浸水6棟（宮城県）、床下浸水51棟（宮城県・静岡県）	
国土交通省 の主な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海上保安庁巡視船艇349隻・航空機44機、地方整備局災害対策用ヘリコプター5機により調査警戒を実施</li> <li>・4県5市に情報連絡担当官を派遣</li> <li>・津波到達に備え水門の閉鎖等を実施 （国管理390施設、自治体等管理9,233施設）</li> <li>・津波の影響を受ける区間について一時通行止めを実施 （直轄国道10路線、県管理道路121路線、高速道路3路線）</li> </ul>	

## ○ 梅雨

- ▶ 6月11日～7月19日の梅雨期の大雨による被害は次のとおり<sup>8)</sup>。
  - ・人的被害：死者16名、行方不明者5名、重傷者6名、軽傷者15名。
  - ・住家被害：全壊42棟、半壊74棟。床上浸水1,786棟、床下浸水5,702棟。
  - ・土砂災害：土石流等139件、地すべり21件、がけ崩れ416件。



### (1) 7月3日から大雨による鹿児島県・宮崎県の土砂災害等<sup>9)</sup>

- ▶ 7月3～4日にかけて九州南部で大雨。1時間降水量が鹿児島県南種子町（みなみたねちょう）で115.0mm、宮崎県えびの市で110.0mm、24時間降水量が鹿児島県南種子町で347.0mmとなり、いずれも観測史上1位を記録。
- ▶ この大雨により、鹿児島県霧島市において土石流で1名死亡するなど合計2名死亡。宮崎県都城市ではがけ崩れにより1名行方不明。
- ▶ また7月4～8日にかけて鹿児島県南大隅町でも7回土石流が発生。

項目	内容
人的被害	死者2名（鹿児島県霧島市、湧水町）、行方不明1名（宮崎県都城市）
住家被害	鹿児島県 全壊3棟（曾於市、霧島市）、半壊1棟（霧島市）
	宮崎県 全壊3棟、半壊1棟（都城市）
浸水被害	鹿児島県 床上浸水1棟（曾於市）、床下浸水25棟（曾於市等）
	宮崎県 床上浸水41棟、床下浸水81棟（都城市等）
土砂災害	土石流等9件、地すべり1件、がけ崩れ26件
国土交通省の主な対応	3日、宮崎県都城市の内水排除に排水ポンプ車を出動 6～7日、九州地方整備局災害対策用ヘリによる被災状況調査 6日～鹿児島県南大隅町の土石流除去に照明車、遠隔操縦機械を出動 7日、鹿児島県南大隅町の土石流現場に土砂災害の専門家を派遣 8～9日、鹿児島県霧島市、曾於市、宮崎県都城市に災害緊急調査



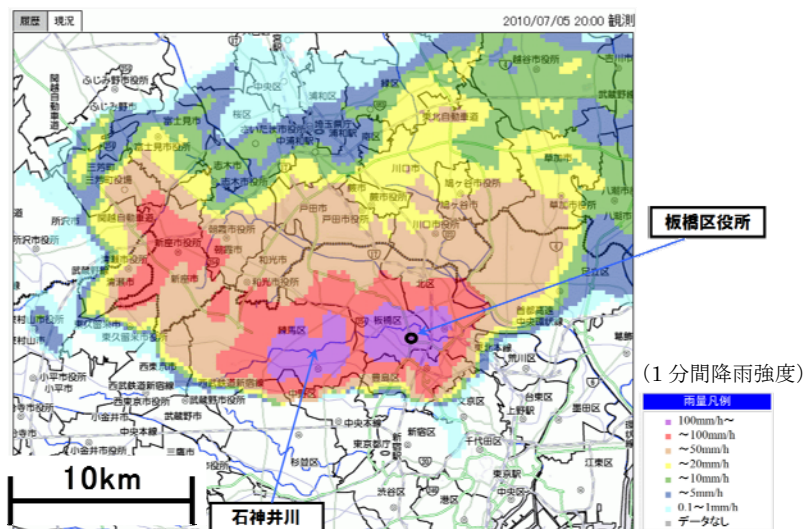
写真－1 主要地方道都城隼人線  
(鹿児島県霧島市)



写真－2 鹿児島県南大隅町の土石流

## (2) 7月5日の大雨による東京都の石神井川の氾濫

- ▶ 7月5日、東京都板橋区で1時間降水量114mm(練馬区で42.5mm)の局地的な大雨が発生。
- ▶ この集中豪雨により、一級河川荒川水系石神井川(北区)が氾濫し、床上浸水230棟、床下浸水231棟。



降雨の状況(7月5日20:00時点、XバンドMPレーダより)

## (3) 7月10日～15日の大雨による中国・九州北部の水害・土砂災害<sup>10)</sup>

- ▶ 7月10～15日にかけて中国地方から九州北部で大雨。1時間降水量は佐賀市で79.5mm、北九州市小倉南区で73.5mmを記録し、総降水量は佐賀市で607.5mm、山口県美祢市で588.0mmに上った。
- ▶ 7月14日の大雨により、広島県呉市で土石流などにより死者2名。また、二級河川紫川(北九州市)が氾濫したほか、一級河川筑後川、遠賀川などで氾濫危険水位を超過し、内水氾濫が発生。
- ▶ 7月15日の大雨により、広島県世羅町で土石流などにより死者2名。また、山口県の二級河川厚狭川(あさがわ、山陽小野田市)木屋川(こやがわ、下関市)が氾濫。

項目	内容	備考
人的被害	死者4名（呉市、三原市、廿日市市、世羅町）	
住家被害	広島県 全壊7棟、半壊22棟（呉市等）	
	山口県 全壊3棟、半壊31棟（美祢市等）	
	福岡県 全壊3棟（桂川町、福智町、みやこ町）	
浸水被害	広島県 床上浸水250棟（呉市等）、床下浸水1,361棟（広島市等）	
	山口県 床上浸水619棟、床下浸水980棟（山陽小野田市等）	
	福岡県 床上浸水118棟、床下浸水431棟（北九州市等）	
国土交通省 の主な対応	14日、九州地方整備局災害対策用ヘリコプターによる被災状況調査	
	14日、広島県三次市・安芸高田市、福岡県、福岡市、北九州市に情報連絡担当官を派遣	
	14日～江の川（広島県）、遠賀川、筑後川の内水除去等に排水ポンプ車、照明車出動	
	15～16日、山口県に情報連絡担当官を派遣	
	16日、四国地方整備局災害対策用ヘリコプターによる被災状況調査 16日、山陽小野田市等に災害緊急調査を実施	



写真－3 広島県呉市の土石流



写真－4 厚狭川（山口県山陽小野田市）

#### （4）7月15日の大雨による岐阜県の水害および土砂災害<sup>11)</sup>

- ▶ 7月15日、多治見市で1時間降水量83.5mmの局地的な大雨が発生し、八百津町では24時間降水量が239.0mmに達する。いずれも観測史上1位を記録。
- ▶ 7月15日の大雨により、一級河川木曾川水系可児川（可児市）が氾濫し1名死亡、2名行方不明。また、八百津町で土石流により3名死亡。

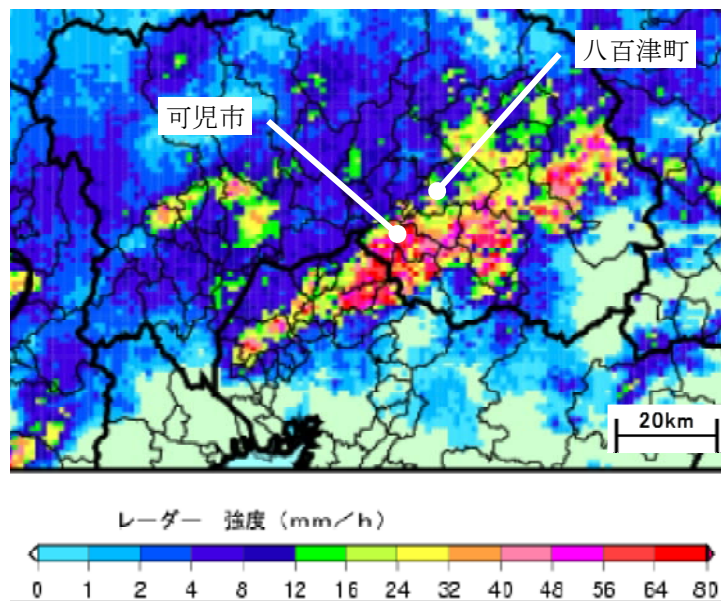
項目	内容	備考
人的被害	死者4名（可児市、八百津町）、行方不明者2名（可児市）	
住家被害	全壊4棟、半壊3棟、一部損壊8棟（八百津町等）	
浸水被害	床上浸水75棟、床下浸水380棟（可児市等）	
土砂災害	土石流2件（八百津町、御嵩町）がけ崩れ2件（可児市、八百津町）	
国土交通省 の主な対応	16日、中部地方整備局災害対策用ヘリによる被災状況調査	
	16日、可児市、八百津町に情報連絡担当官を派遣	
	16日、可児市に災害緊急調査を実施	
	16日～水没道路の排水、復旧支援等に排水ポンプ車、照明車出動	



写真－5 可児川の氾濫による被災状況



写真－6 八百津町の土石流



レーダー降雨強度図 (7月15日 19:00)

**(5) 7月16日の大雨による広島県庄原市の土砂災害等<sup>12)</sup>**

- ▶ 7月16日、広島県庄原市で1時間降水量64.0mmの局地的な大雨となり、観測史上1位を記録。
- ▶ この短時間の非常に強い降雨により、同市川北町、川西町などで斜面崩壊が多数発生し、土石流などにより死者1名、人家全壊等の被害が発生。

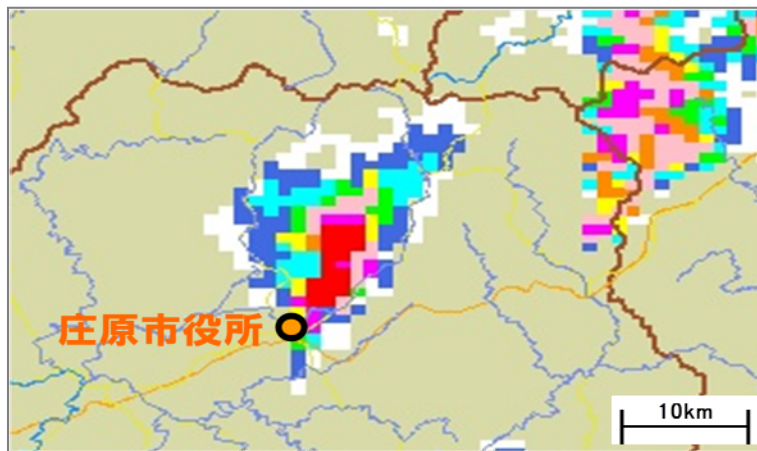
項目	内容	備考
人的被害	死者1名、重傷者1名 (庄原市)	
住家被害	全壊12棟、半壊12棟、一部損壊6棟 (庄原市)	
浸水被害	床上浸水1棟、床下浸水30棟 (庄原市)	
国土交通省の主な対応	16～18日、庄原市に情報連絡担当官を派遣 17～18日、四国地方整備局災害対策用ヘリによる被災状況調査 17～27日、庄原市にTEC-FORCEをのべ69名・日派遣	



写真－7 庄原市の土砂災害



写真－8 庄原市の被災状況



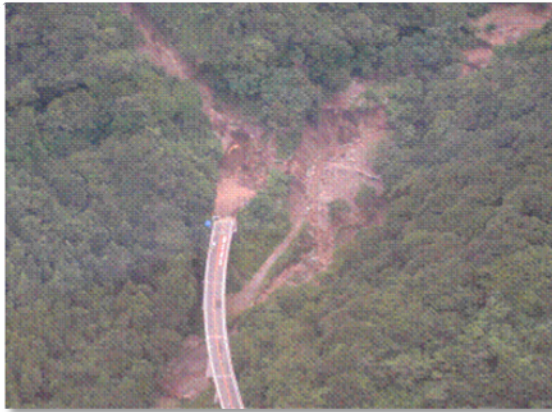
レーダー降雨強度図（7月16日16:40）

### ○ 台風 ー台風第9号<sup>13)</sup> ー

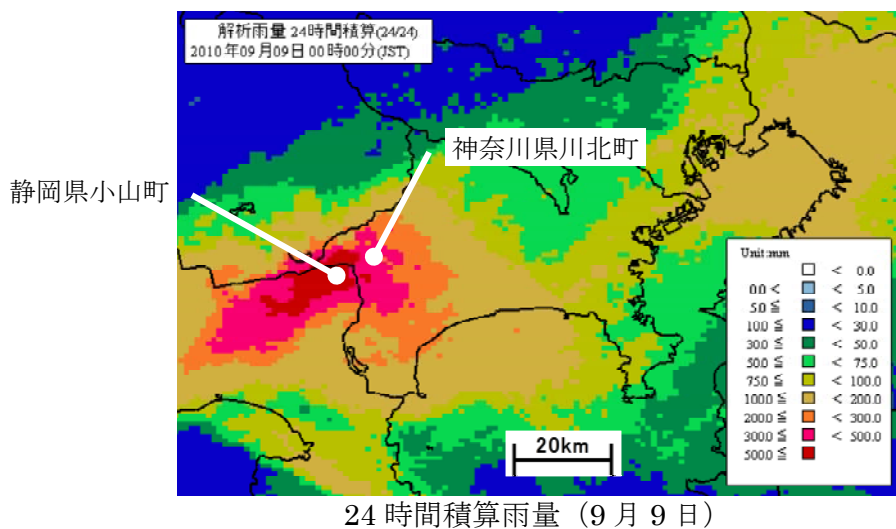
- ▶ 9月8日の台風第9号の影響により、神奈川県山北町丹沢湖および小田原市で1時間降水量77.5mm、静岡県小山町付近では1時間降水量の解析雨量<sup>14)</sup>がおよそ120mmの局地的な大雨が発生。日降水量は、神奈川県山北町丹沢湖で495.5mm、小田原市で238.5mmとなり、観測史上1位を記録。
- ▶ この大雨により、土砂が崩落し静岡県小山町の直轄国道246号が通行止めになるなど、静岡県や神奈川県などで土砂災害や浸水被害、道路崩壊などが発生。

項目	内容		備考
人的被害	神奈川県	重傷者2名、軽傷者1名（山北町）	
	静岡県	重傷者1名	
住家被害	神奈川県	半壊2棟（山北町）	
	静岡県	全壊4棟、半壊3棟（小山町）	
浸水被害	神奈川県	床上浸水19棟、床下浸水281棟（小田原市等）	
	静岡県	床上浸水55棟、床下浸水104棟（小山町等）	
国土交通省の主な対応	8日、静岡県御殿場市、小山町にリエゾン（連絡調整要員）を派遣 9日、関東地整、中部地整の災害対策用ヘリによる被災状況調査 10～15日、静岡県小山町にTEC-FORCEをのべ81名・日派遣 15～16日、静岡県小山町に災害緊急調査を実施		





写真－9 国道 246 号（静岡県小山町） 写真－10 町道足柄三保線（静岡県小山町）



24 時間積算雨量（9 月 9 日）

### ○ 秋雨前線 —奄美地方における大雨による土砂災害等<sup>15)</sup>—

- ▶ 前線が奄美地方に停滞し、この前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響により、鹿児島県奄美地方で局地的な大雨となり、奄美市名瀬では1時間降水量 78.5mm、24 時間降水量 684mm（観測史上 1 位）、降り始めからの降水量 805.5mm の雨を観測した。また、奄美市住用村では1時間降水量 120mm 以上が2時間継続するなど、猛烈な雨となった。
- ▶ この大雨により島内の各地で河川氾濫や土砂崩れが発生し、奄美市で死者 2 名、龍郷町で死者 1 名の人的被害の他、全壊・半壊合せて 11 棟、床上浸水 591 棟、床下浸水 883 棟の建物被害が発生した。
- ▶ また、都道府県管理道路が一時 37 区間で土砂崩れ等により通行止めとなったほか、河川施設被害 95 箇所、道路施設被害が 253 箇所になるなど、各地で公共土木施設被害（10 月 27 日 12 時現在、調査率 76%）が発生した。

項目	内容	備考
人的被害	死者 3 名（奄美市住用町、龍郷町）	
住家被害	全壊 7 棟、半壊 4 棟（龍郷町、奄美市、大和村）	
浸水被害	床上浸水 591 棟、床下浸水 883 棟（龍郷町、奄美市等）	

国土交通省  
の主な対応

・情報連絡担当官の派遣

21日から鹿児島県庁、23日から鹿児島県大島支庁、27日から龍郷町、大和村に情報連絡担当官を計32人・日を派遣。(10月27日現在)

・TEC-FORCEの派遣

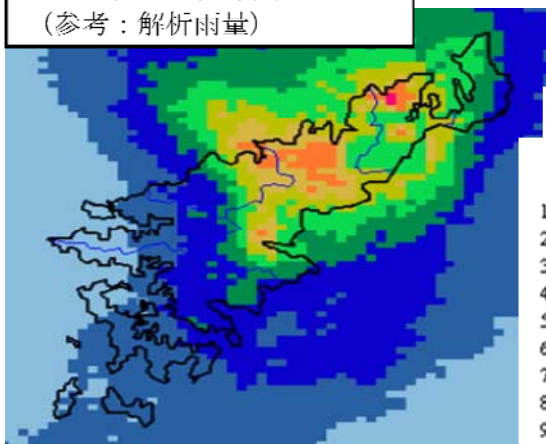
21日に情報通信班、22日より被災状況調査班、現値支援班、応急対策班を派遣。26日には高度技術指導班を派遣している。合計131人・日を派遣(10月27日現在)

住用郵便局の屋根に避難する住民

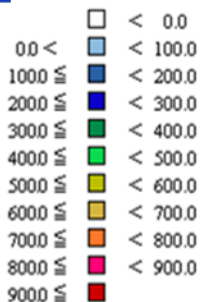


写真-11 住用町西仲間地内(奄美市役所提供)

20日0時~24時の降水量  
(参考:解析雨量)



降水量(ミリ)

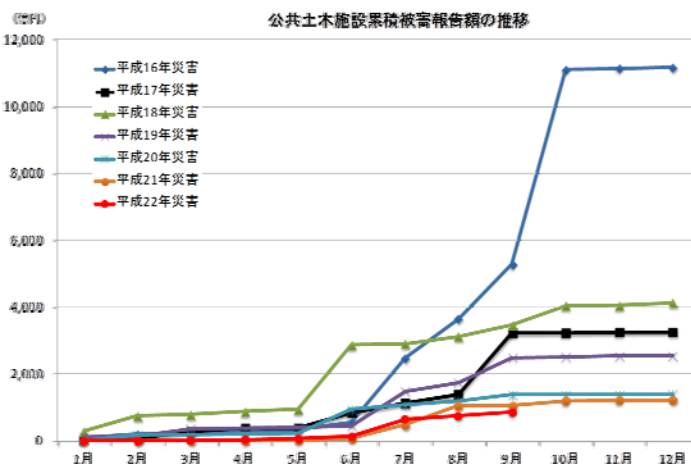


奄美大島



### 3. 公共土木施設被害

- ▶ 公共土木施設の被害報告額は、9月末時点で7,700箇所867億円と過去最低を更新。
- ▶ 被害は、河川施設が4,022箇所423億円、道路施設3,274箇所359億円、砂防施設316箇所43億円等となっている。



(注釈)

- 1) 梅雨時期と降水量の平年比較：H22.9.1 気象庁発表。梅雨時期の降水量は、全国 153 の気象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6～7月。沖縄と奄美は5～6月)の地域平均降水量を平年比で示している。
- 2) 気象庁調べ。平年値は、1971年～2000年の30年平均  
接近とは、台風が中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合。上陸とは、台風が中心が本州、北海道、九州、四国の海岸線に達した場合。ただし、小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」。
- 3) 8月の天候：H22.9.1 気象庁発表
- 4) 異常気象分析検討会の検討結果：H22.9.3 気象庁発表  
日本の平均気温の平年差の算出には、長期間にわたる気温観測データが存在し、都市化による影響が少ない17地点の気象観測所を日本の平均気温算出地点として採用。
- 5) 夏(6～8月)の天候：H22.9.1 気象庁発表
- 6) 熱中症による救急搬送状況：H22.10 消防庁発表
- 7) 2月27日15時34分頃にチリ中部沿岸で発生した地震：H22.2.28 気象庁発表
- 8) 平成22年梅雨期における大雨による被害状況：H22.9.9 消防庁発表
- 9) 7月3日からの大雨に関する被害状況：H22.7.8 宮崎県発表、H22.7.5 鹿児島県発表
- 10) 7月10日～15日の大雨に関する被害状況：H22.9.8 広島県災害復旧対策本部員会議資料、H22.9.8 山口県発表、H22.7.15 福岡県発表
- 11) 7.15 豪雨災害検証報告書：岐阜県
- 12) 7月16日の広島県庄原市の被災状況：H22.9.8 広島県災害復旧対策本部員会議資料
- 13) 台風第9号の大雨による被災状況：H22.9.21 神奈川県発表、H22.9.15 静岡県発表
- 14) 解析雨量とは、気象レーダーにより観測された雨の強さを、アメダス等の雨量計により観測された雨量を用いて、解析・補正したもの。
- 15) 10月18日～26日の奄美地方における大雨による被害状況：10月26日現在気象庁情報、消防庁調べ